

つくばで輝く研究者

Hara Hiromasa 原 大雅 さん

CYBERDYNE株式会社 HAL®腰タイプ研究開発チーム統括



社内「HAL®」の前で

兵庫県神戸市出身。2008年筑波大学大学院システム情報工学研究科知能機能システム専攻入学、13年博士(工学)取得。同年CYBERDYNE株式会社入社、研究開発部門に配属。主にHAL®腰タイプの研究開発を担当し、14年作業支援用として腰部負荷低減可能なHAL®腰タイプを製品化。以降、介護支援用など他モデルを積極展開し、今年4月には身体機能向上を促進する自立支援用のHAL®腰タイプを個人向けに製品化。

幼少期に芽吹いていた。研究者としての資質は「きつかけは母」

「1」を「2」に一。
「もっと良く」信条貫く

趣味のテニスとウェイクボード

「0から1を生み出すより、今ある1を2にするのが好き」というリアリスト(現実主義者)な部分を長所として自覚。今後のキャリアでも「今あるものをもっと良く」にこだわりたい。

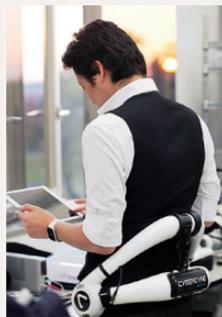
「もっと良く」信条貫く

「もっと良く」信条貫く

「HAL®腰生みの親」
筑波大学システム情報系サイバニクス研究センターの研究統括 山海嘉之教授の研究成果で社会貢献するため設立されたCYBERDYNE株式会社に2013年入社。

「もっと良く」信条貫く

「もっと良く」信条貫く



オフィスにて
5ミリの鶴を折れるくらいの手先が器用で理系科目が得意。大学院進学を検討する中、母が椎間板ヘルニアを患った。立ち座りや歩行時などに軽く動きをサポートしてあげると多少痛みが緩和することとが分かり、自分の意思でロボットを動かす、それらの動きをアシストすることで腰痛を緩和できるロボットの開発を決意しました。研究者としての目標が定まり、生体電位信号に基づき自分の意思で動かせる装着型サイボーグHAL®を開発する山海研究室の門をたたいた。院生時代は腰部装着型HAL®の研究に没頭。博士修了後同社に入社し、1年半で腰部負荷低減(作業支援)目的のHAL®腰タイプを製品化した。「当初の予定より前倒しで実現できたのはうれしかったです。HAL®腰タイプへの思い入れは強いが、新しい研究に注力したい願望もある。「でも、今も気付けていて、あそこをこうしたらもっと良くなるかな、なんて」

「つくばの暮らしか」
妻と1歳の長男の3人暮らし。田舎過ぎず、都会過ぎない。つくばが気に入っている。「住むなら？兵庫なら神戸、茨城ならつくばです」と笑顔。学生時代バレー部でアタッカーとして活躍し、全国大会6連覇を成し遂げたスポーツマン。休日にはテニスやウエイクボードなどウインタースポーツもお手の物で、愛息を連れて雪山を訪れる日が待ち遠しい。「一緒に思いっきり雪遊びしたいですね」